

クボタ・三井不動産・関電不動産開発 クボタ旧本社跡地活用に関する基本協定締結 多目的アリーナ「(仮称) Kubota LaLa arena」を核とした複合開発を始動 街区名称を「Kubota field」に決定

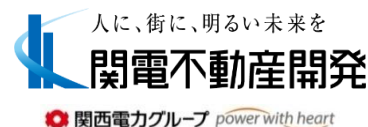
本リリースのポイント

- ・ クボタ、三井不動産、関電不動産開発が、大阪市浪速区のクボタ旧本社跡地活用に関する基本協定を締結。
- ・ 今後は三井不動産および関電不動産開発が、収容人数約 1.25 万人の多目的アリーナを核に、ホテル、商業施設を含む複合開発について具体的な検討を開始。
- ・ アリーナ名称は「(仮称)Kubota LaLa arena」とする予定。街区名称を「Kubota field」として、クボタが約 130 年にわたり本社を構えた大阪・なんばエリアにおいてレガシーを継承する取り組みを行うとともに、新たなにぎわいの創出をめざす。

株式会社クボタ(本社:大阪市北区、代表取締役社長 CEO:花田 晋吾、以下「クボタ」)、三井不動産株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:植田 俊、以下「三井不動産」)および関電不動産開発株式会社(本社:大阪市北区、代表取締役社長:福本 恵美、以下「関電不動産開発」)は、大阪市浪速区のクボタ旧本社跡地活用に関する基本協定を締結したことをお知らせいたします。

クボタ旧本社跡地の活用については、三井住友信託銀行株式会社の助言に基づき、同社を幹事会社とする公募プロセスを 2025 年 10 月より実施しており、2026 年 5 月に三井不動産および関電不動産開発が優先交渉権者として選定されました。

本協定の締結により、2032 年以降の開業に向け、今後は開発事業者となる三井不動産および関電不動産開発が多目的アリーナを核としたホテル・商業施設等を含む複合開発の検討を加速させ、本事業を都市活動の活性化に資する拠点とし、大阪・なんばエリア全体の新たなにぎわい創出をめざしてまいります。



■事業概要

スポーツイベントや音楽イベント等、多目的利用を前提とした収容人数約 1.25 万人規模のアリーナを核として、アリーナ来場者の宿泊需要や旺盛なインバウンド需要にも対応したホテルや、アリーナでイベントがない日にも日常のにぎわいをもたらす商業施設を計画しております。多様なアリーナイベントの誘致を通じて、多くの人々が集い、にぎわいが地域に波及する新たな拠点となることをめざします。

■街区名称・アリーナ名称について

クボタは、旧本社の老朽化によりグラングリーン大阪(大阪市北区)に本社を移転しましたが、約 130 年にわたって食料・水・環境分野における社会課題の解決に取り組み、長年にわたり事業を営んできた大阪・なんばエリアへの感謝を念頭に、今後も街全体のにぎわい創出に加え、クボタグループの企業価値向上およびレガシー継承に資する取り組みを実施してまいります。この想いのもと、クボタ、三井不動産、関電不動産開発は、本事業の街区全体を「Kubota field(クボタフィールド)」とすることを決定しました。

また、本街区に整備予定の多目的アリーナの名称は、このエリアをスポーツイベントや音楽イベントを通じてともに活性化させることを企図して、三井不動産グループが運営する多目的アリーナ「LaLa arena」とクボタを掛け合わせ、「(仮称)Kubota LaLa arena(クボタららアリーナ)」とする予定です。

クボタの想い ～大阪・なんばエリアのさらなるにぎわいの創出とクボタレガシーの継承～

クボタは、1890 年に大阪の地で鋳物メーカーとして創業し、これまで人の暮らしと社会に貢献する様々な製品を世に送り出してきました。2026 年5月、社屋の老朽化に伴い、本社を移転いたしましたが、跡地に建設されるアリーナを核とした複合開発により、大阪・なんばエリアがさらなるにぎわいを創出し、これまで以上に活性化されることを望んでいます。

また、本事業の街区全体を「Kubota field(クボタフィールド)」と命名し、これまでクボタが行ってきた地域貢献活動を継続するとともに、本事業の施設でのクボタグループの製品・技術の活用等も含めて、当街区全体をクボタのレガシーとして、大切に継承していきます。クボタグループが創業以来取り組んできた「食料・水・環境」を意識したサステナブルな本事業の施設が、長く愛される施設になり、今後もクボタが地域の皆様と繋がり、ともに発展できることを強く望んでいます。

三井不動産の想い ～「スポーツ・エンターテインメントの力」を活用した街づくり～

三井不動産は、長期経営方針「&INNOVATION 2030」において、「新たなアセットクラスへの展開」を事業戦略の一つとして掲げており、スポーツ・エンターテインメントの力を活用したリアル体験価値を最大化する街づくりをめざしています。

この中で当社グループは、収容人数 5 万人規模の「東京ドーム」(東京都文京区)や、収容人数 2 万人規模の「(仮称)新秩父宮ラグビー場 SMBC Olive SQUARE」(東京都新宿区)、収容人数 1 万人規模の多目的アリーナ「LaLa arena TOKYO-BAY」(千葉県船橋市)や「(仮称)名古屋アリーナ」(愛知県名古屋市)など、複数のエリアで多様な規模の会場を展開しています。また、会場の保有・運営にとどまらず、「三井ショッピングパーク ららぽーと」や「三井アウトレットパーク」をはじめとする当社商業施設におけるアーティスト等との連携イベントの実施や、三井ショッピングパーク公式通販サイト「&mall(アンドモール)」、「三井ショッピングパークチケット」を通じたグッズ・チケット販売などにより、イベント前後を含めたお客さまの体験価値の最大化に取り組んできました。

本事業が位置する大阪・なんばエリアは、高い交通利便性を有するとともに、古くから多様なエンターテインメントが育まれ、国内外から多くの人々が訪れる関西有数の拠点です。関西圏でスポーツイベントや音楽コンサートなどを開催できるアリーナが不足する中、こうしたエンターテインメントの力が息づく大阪・なんばエリアに約 1.25 万人規模の多目的アリーナが誕生することで、人々が集い、熱狂し、交流する場を生み出し、ここでしか味わえない感動体験と新たなにぎわいを創出してまいります。

当社は、ハード・ソフト両面で培ってきた知見や、グループ会社である株式会社東京ドームの運営ノウハウを活かしたイベント誘致・運営の可能性を広げることで、スポーツ・エンターテインメント業界全体のさらなる活性化に寄与するとともに、本事業においては、クボタ様が長年事業活動を継続してきた大阪・なんばエリアへの想いを踏まえ、地域に新たなにぎわいを生み出す街づくりを実現してまいります。

関電不動産開発の想い ～「省エネルギー」「環境配慮」を軸とした「安心・安全・快適」なまちづくりを提供～

関電不動産開発は、関西電力グループの総合不動産デベロッパーとして、マンション・戸建、オフィスビル、商業施設、ホテルや物流施設等、長年培ってきた技術、ノウハウ・情報を活かし、「省エネルギー」「環境配慮」を軸とした「安心・安全・快適」なまちづくりを提供し、国内では関西を中心に全国で、海外では米国、東南アジア、豪州において事業展開しています。

大阪・なんばエリアは、通称“ミナミ”と呼ばれ、昔からエンターテインメント性や人情味溢れる街であるという土壌が備わったまちで、昨今は特にミナミ特有のまちの文化に触れようと国内外から多くの人々が訪れ、さらに多彩な都市機能が集積する関西有数の拠点でもあります。

クボタ様は大阪・なんばエリアにおいて約 130 年の長きにわたり、本社機能を備え事業を展開されてきましたが、2026 年 5 月に本社機能を梅田に移転された後も、クボタ様の大阪・なんばエリアの「地域活性化」に貢献したいとの熱い想いに応えるべく、関電不動産開発としてその想いの実現に寄与する利活用提案をさせていただきました。

関電不動産開発はミナミの地においては、難波千日前における複合開発をはじめ、大阪・なんばエリアのポテンシャルを引き出すまちづくりを継続的に推進しています。また、関西電力グループのデベロッパーとして、「不動産業界のゼロカーボンリーディングカンパニー」をめざし、今まで培ってきたオール電化に関するノウハウと関西電力グループシナジーの活用により、「ゼロカーボンの選択肢を社会に」提供することで持続可能な未来の創造および環境性能と快適性を両立したまちづくりを推進してまいります。

＜添付資料①＞ 会社概要

株式会社クボタ

創業	1890 年 2 月
代表者	代表取締役社長 CEO 花田 晋吾
所在地	大阪府大阪市北区大深町 5 番 54 号 グラングリーン大阪南館パークタワー
公式 Web	https://www.kubota.co.jp/

三井不動産株式会社

設立	1941 年 7 月
代表者	代表取締役社長 植田 俊
所在地	東京都中央区日本橋室町 2 丁目 1 番 1 号
公式 Web	https://www.mitsuifudosan.co.jp/

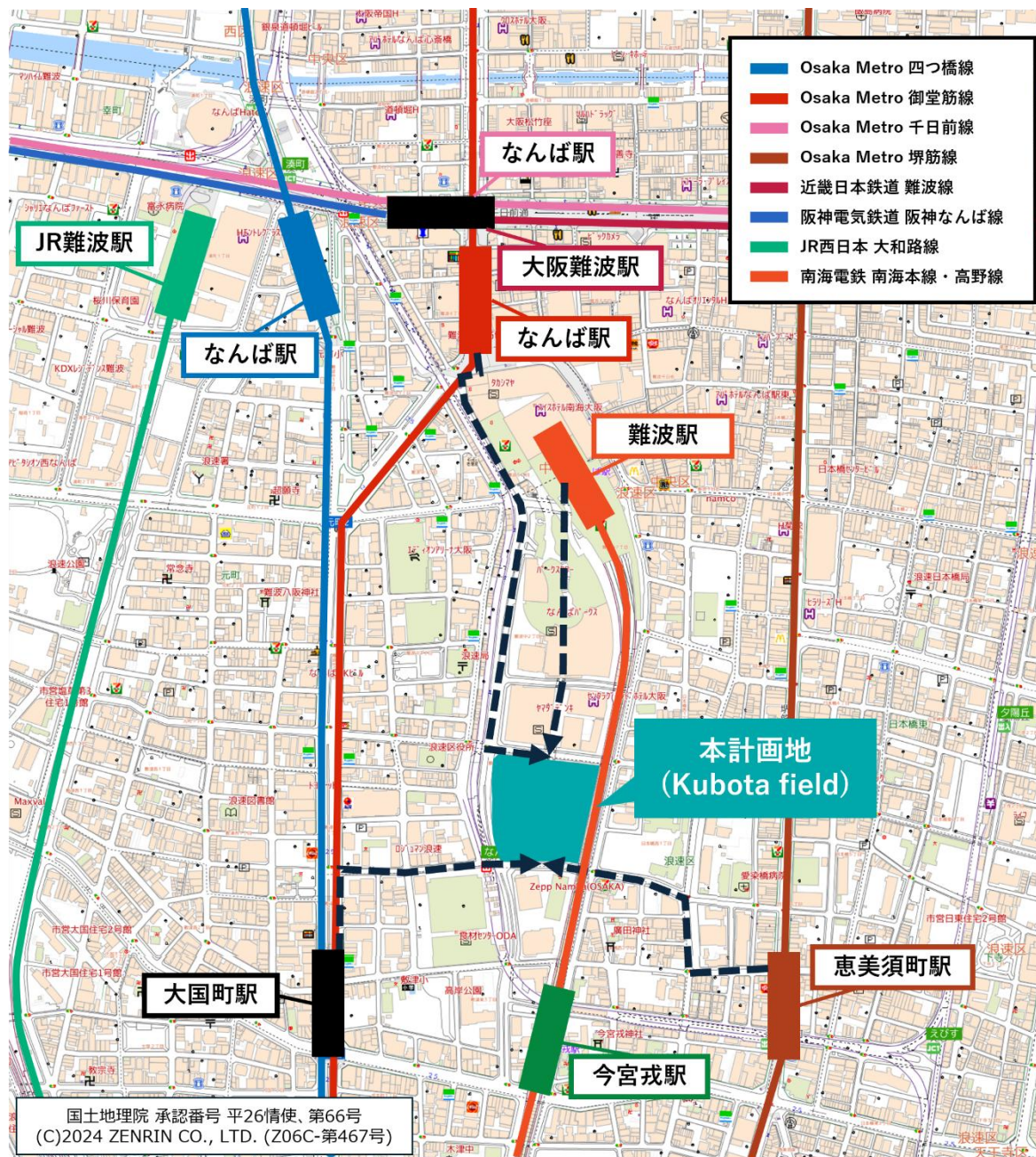
関電不動産開発株式会社

設立	1957 年 5 月
代表者	代表取締役社長 福本 恵美
所在地	大阪府大阪市北区中之島 3 丁目 3 番 23 号 中之島ダイビル
公式 Web	https://www.kanden-rd.co.jp/

＜添付資料②＞ クボタ旧本社跡地活用の概要

所在地	大阪市浪速区敷津東 1 丁目 2-47
街区名称	Kubota field(クボタフィールド)
敷地面積	約 24,000 m ² (約 7,300 坪)
交通	近畿日本鉄道 難波線「大阪難波」駅 徒歩約 12 分 南海電鉄 南海本線・高野線「難波」駅 徒歩約 8 分 Osaka Metro 御堂筋線「なんば」駅 徒歩約 8 分 Osaka Metro 御堂筋線「大国町」駅 徒歩約 8 分 Osaka Metro 堺筋線「恵美須町」駅 徒歩約 6 分
事業主体	多目的アリーナ : 三井不動産 ホテル : 関電不動産開発 商業施設 : 関電不動産開発
スケジュール(予定)	開業 2032 年以降

<添付資料③> 位置図



※今宮戎駅には南海電鉄高野線のみ停車